

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04369

研究課題名(和文)大日本回教協会旧蔵写真資料の国際共同研究：画像資料の実態解明とアーカイブ構築

研究課題名(英文)International Collaborative Study on the Photographic Archives of the Greater Japan Muslim League

研究代表者

三沢 伸生 (MISAWA, Nobuo)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：80328640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：戦前・戦中期の日本の回教政策とは何であったのかを解明するために、その重要資料である大日本回教協会(1938-45)旧蔵写真資料について、従来までの資料分析結果をさらに昇華・綿密なる分析と情報の整理を行い、アーカイブ構築の基盤を確立した。予期せぬコロナ禍蔓延にともなう障害が生じたものの、この作業のため日本人研究者だけでなく、トルコ・アメリカ・スイスなど海外の研究者たちも含めて、研究ネットワークを組織し、国際共同研究を実施して、同資料の徹底的分析・情報抽出を行うことができた。さらに大川周明関係資料などの補完資料との連携の可能性を示し、将来的な回教政策についての国際的研究の基盤を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

プロジェクトに参画する国内外の研究者を交えてのオンラインでの研究ネットワークを介しての共同調査・分析により、早稲田大学図書館のHP上に格納される「大日本回教協会(1938-45)旧蔵写真資料」につき、被写体人物・撮影場所・撮影時期などの諸項目につき、従前の記録の誤りの補正、不明情報の特定作業に成果を上げ、学術的に意義深いアーカイブ化の土台作業を確立することが出来た。またコロナ禍による遅延が発生したものの、海外研究協力者を日本に招聘しての共同調査と国際シンポジウムの開催、トルコにおける国際ワークショップの開催により、交際共同研究の連携を推進し、論集の刊行を通して研究成果の社会還元も進められた。

研究成果の概要(英文)：It is well known that “Deposited Photographic Materials by the Dai-Nippon Kaikyo Kyokai (= Great Japan Muslim League) 1938-1945” at the Library of WASEDA University is the most important source materials to research the Japanese policy against Muslims in Interwar period. We have conducted a more in-depth analysis of the contents of these materials and organized the information to establish a foundation for building an digitized archive. For this work, despite the pandemic of COVID-19, we organized a research network that included not only Japanese researchers but also foreign researchers from Turkey, the U.S., Switzerland, and other countries, and conducted international joint research to thoroughly analyze and extract information from the materials. In addition, we indicated the possibility of collaboration with complementary materials like the materials about the Shumei OKAWA. In this way, we have laid the groundwork for an international study of future research.

研究分野：歴史学、イスラーム地域研究

キーワード：イスラーム 回教 アジア主義 タタール アーカイブ データベース 史資料

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初において、昨今のグローバル・ヒストリーの興隆が本研究を立案する際において最も意識した学術的背景である。すなわち従前の単純な近代ヨーロッパにおいて形成されたヨーロッパ強国本位の歴史学叙述を打破して、地球規模で近代史を見直すグローバル・ヒストリーは歴史学の枠を超えて地域研究とも連動して世界認識の再構築を目指している。こうした中において、従前まで看過されてきた様々な事象が学術研究の俎上にあがってきている。日本のイスラーム地域研究に関して言えば、戦後から現在に至るまでアラビア語をはじめ現地語を習得し、現地に留学、現地で調査することで学術研究の発展を実現してきたが、戦前・戦中期の日本の回教政策にかんしては、この時期の日本のイスラーム研究が加担してきたとの意識から忌避される研究課題であった。しかし21世紀以降、国内外の近現代にかんする研究において、日本の回教政策の果たした役割・影響が注目を集めると、日本に埋没していた関連史資料の発掘・再評価・分析が始まったことが学術的背景である。

この基本的認識にたつて、本研究課題の核心をなす学術的「問い」とは、戦前・戦中期に日本が推進した回教政策とは何であったのか、その詳細な実態解明である。従前まで回教政策といえば、北進論推進期における中国・朝鮮半島における「回教工作」と呼称されたイスラーム教徒懐柔策、南進論推進期には一転してインドネシア・マレーシアなど東南アジアにおけるイスラーム教徒への接近策という時代区分に基づく平板な理解認識に留まっていた。しかし、大日本回教協会(1938-45)旧蔵写真資料には、この認識を覆すように、モンゴル、中央アジア、中東地域との関連を模索する写真資料も多数含まれており、回教政策が、単に北進論・南進論に収斂されず、広大なイスラーム地域全体を射程に、様々な具体的な試みが実施されていたことが分かる。そうした試みは当該地域に大きな影響を及ぼし、当該地域の研究者の学術的関心を喚起している。本写真資料のように日本側の史資料を基軸に、国際共同研究を推進して、関連諸地域の史資料と照会・補完させ、本資料に含まれる諸情報を明らかにして日本が推進した回教政策を詳細に解明することが最も核心をなすことである。また本研究で完結することなく、将来にわたり国際的学術研究に資する多言語対応の詳細な画像情報の内容をあわせもつデジタル・アーカイブを構築して世界に発信することも核心とする。

## 2. 研究の目的

前述の学術的背景に即して、本研究は戦前・戦中期の日本の回教政策の実態解明のための最重要資料である大日本回教協会の所蔵資料、とりわけその写真資料につきそこから読み取れる諸情報を国際共同研究で分析・研究して成果を公開しつつ、将来的な研究に資するべく同資料の汎用的アーカイブを構築することを目的とする。

大日本回教協会とは1938年に「東亜新秩序の建設」を題目に日本とイスラーム教徒との友好関係を築くために設立された団体である。初代会長に元首相・陸軍大将の林銑十郎が務め、以後も

陸海の将官が歴任したように、その実態は大アジア主義に基づく日本本位のイスラーム教徒宣撫政策である回教政策の実行組織であった。この時期の日本のイスラーム地域研究も同協会と深い関係にあった。それゆえに 1945 年の終戦直後に GHQ によって解散されたものの、戦前・戦中期において潤沢な資金と軍部の支援のもと国内外で様々な施策・運動を講じた。戦後に同協会が解散、回教政策が放棄されたのちに再興された日本のイスラーム地域研究においては、当初は同協会にかかわった人物も含まれたものの、もはや同協会や回教政策に関して触れることは忌避され、世代交代が進むと忘却された。

しかし同協会の所蔵していた諸資料は関係者によって早稲田大学中央図書館に収蔵されることとなった。散逸は免れたが、その存在はほとんど忘却され、資料は埋没状態にあった。21 世紀に入り、早稲田大学教授であり本研究の研究分担者の一人である店田廣文により、再発見され、エクセルベースで簡易データベースが製作され、その全容が明らかになった。これを受けて、臼杵陽・三沢伸生が科研費研究プロジェクトとして店田と協力して、全写真資料をスキャンして CD-ROM 版資料集を製作した。この結果、内外の研究者に同資料が日本の回教政策を解明するうえで、重要な基本資料であるという認識が高まり、早稲田大学イスラーム地域研究機構プロジェクトによって、早稲田大学 HP 上に全写真資料を収蔵するデータベースが構築、全世界に向けて発信された。しかし同プロジェクトは年限付であり、2018 年度末をもって終了を迎えた。

そこで本研究は、同データベースを継承し、さらに同データベースが実施することのできなかった画像情報についての実態解明を、画像に関わる様々な補完史資料を国内外問わず国際共同研究でもって探索・収集・分析して、先に述べたように様々な情報を内包する汎用デジタル・アーカイブを構築、公開することを目的とする。

本研究の学術的独自性は、従前まで単なる写真資料としてのみその価値を認められていた同資料につき、その画像が、いつ、どこで、どういう被写体(人物、建造物)を、どのような目的でもって撮影し、その写真が新聞・雑誌などどういう媒体を介して公開されたか、非公開にとどまったのか、さらにその写真によっていかなる結果・影響が出たのかについて、国際共同研究でもって徹底的な実態解明をはじめて行うことにある。既に本研究の研究分担者たち、あるいは海外の研究協力者によって断片的に試みられているものの、それを徹底して行うことで同資料の価値をさらに高めようとする。またその成果を従来までのデータベースから一歩進めて、汎用性が高く、諸情報が網羅されたデジタル・アーカイブとして構築・公開・発信することによって、本研究だけで自己完結することなく、将来的な国内外の研究に広く大きく寄与するという創造性を有するものである。

### 3. 研究の方法

- (1) **研究組織**: 研究代表者と 6 名の研究分担者の計 7 名はいずれも戦前・戦中期の日本における回教政策研究の経験を有する歴史学・社会学を専門とするイスラーム地域研究者であり、アラビア語・トルコ語・ペルシア語・ヘブライ語というイスラーム世界の主要言語を習得、中東地域における留学・長期滞在研究経験を有している。また本研究の対象たる大日本回教協会所蔵

資料の従前までの整理・分析・データベース化に関与しており、本研究課題実施に最適である。また多くの国内外の研究協力者の参画を得た。

- (2) **国内外に及ぶ研究ネットワーク形成**: 国際共同研究を主眼として、トルコ・エジプト・アメリカ・ロシア・スイスなどの大学・研究機関所属の研究者および彼らのもとにある院生・若手研究者たちを海外研究協力者として、コロナ禍の影響によりオンライン形式による研究会・資料共同分析を主眼とする研究ネットワークを形成・運営することとした。
- (3) **研究会・ワークショップ**: 当初は対面形式で国内研究メンバーを中心に定期的な研究会を開催、毎年数名の海外研究協力者を日本に招聘してのワークショップを開催する予定であったが、本研究開始時より世界的なコロナ禍の蔓延およびそれにとまなう所属大学の校務の関係により、対面形式から上記のようにオンライン形式による変則的な研究会開催をとり、コロナ禍鎮静化を見据えて海外短期出張、日本への招聘による研究会を開催することとした。
- (4) **個別調査**: 大日本回教協会所蔵写真資料につき、従前の分類から、メンバーの研究対象専門に即して、分担して個別調査を行うとともに、各々が補完資料の探索・関連付けを行った。
- (5) **共同調査**: 上記の分担の分析結果を研究会において、総員に共有して検討をおこなったほか、コロナ禍の鎮静化のなか、2022年度に補完資料として山形県酒田市の大川周明顕彰会所蔵資料の調査を共同調査として実施した。また2023年度にようやく海外研究協力者たちをに日本に招聘することが叶い、東京ジャーミー(=モスク)、多磨墓地内のイスラーム教徒墓地の共同調査を実施した。
- (6) **成果公開と社会還元**: 国際共同研究を主眼とする本研究にとって世界的なコロナ禍蔓延により様々な計画の変更・期間延長などの対応に迫られたものの、最終年度の2023年12月に海外研究協力者を日本に招聘して、共同調査を行いつつ、2日間の英語による国際シンポジウムを対面とオンライン双方のハイブリッド形式で開催して、本プロジェクトの成果を広く公開した。また同シンポジウムの要旨集を3分冊で研究代表者の所蔵する東洋大学アジア文化研究所の研究叢書として刊行、国内外の大学・研究機関・図書館および主要研究者に寄贈するとともに上記研究所のホームページ上でPDF版を無料公開した。さらに3月にはトルコで同じくハイブリッド形式で国際ワークショップを開催して、本研究の総括を行いながら、将来的な継続事業につき報告した。特に公開形式につき未解決の課題のため公開が遅れているアーカイブ本体の公開の予定・詳細につき告知した。

#### 4. 研究成果

本研究により従前までの大日本回教協会所蔵写真資料のデータベースに欠落していた個々の写真の基本情報(被写体、撮影場所、撮影時期、撮影目的など)を補い、錯誤情報を修正できたことが何よりも成果である。そしてその新規のデータが、国内外の研究者による国際共同研究によって得られたということが極めて重要である。個人では見落とされる情報、日本人では気付かない外国人・外国の情報がこの国際共同研究ネットワークにより実現したことは、特筆すべき点である。

この結果として大日本回教協会所蔵写真資料が戦前・戦中期における日本の回教政策の実態解明のための最重要資料であることが確認され、また大川周明関係資料などのその他の資料との補完の可能性も開拓された。

しかし本研究は、延長の最終年度を含めて全期間を通してコロナ禍の世界的蔓延の影響を受け、その計画の遅延とそれにとまなう計画内容の変更を余儀なくされた。国際共同研究を主眼とする本研究でありながら、2022 年度まで海外短期出張、日本招聘が不可能となり、2023 年度にようやくとコロナ禍が沈静化しても国内外メンバーの校務関係で、日程調整が難しく、ようやく 12 月に日本において海外研究協力者を招聘しての国際シンポジウム、3 月にトルコでの日本側メンバーが短期海外出張しての国際ワークショップ開催を実現させた。それでもデータベースの期間内に公開実現に支障が生じ、遅延していることは慙愧に堪えない。一面、コロナ禍を奇貨として、国場以外のメンバーが WEB を活用したオンライン形式の国際共同研究手法に習熟し、国際基準となったことは予想外であったが成果と言える。こうして国内外メンバー相互に将来的にさらなる国際共同研究を推進する共通意識・実施基盤を形成できたことは本研究の大きな成果である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 三沢伸生	4. 巻 732
2. 論文標題 「明治維新以降の日本とイスラーム世界の関係」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史と地理』	6. 最初と最後の頁 3-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加藤博	4. 巻 61
2. 論文標題 「エジプトはナイルだけではない エジプト近代史のなかの遊牧民」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『史艸』	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hiroshi KATO, Eri DEGAWA, Susumu SATO, Yutaka GOTO	4. 巻 25
2. 論文標題 “Historical Transitions of the Qisms (Districts) of Greater Cairo”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mediterranean World	6. 最初と最後の頁 153-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yutaka GOTO, Susumu SATO, Hiroshi KATO	4. 巻 25
2. 論文標題 “Person Trip Survey Data as a Source Material for the Study of the Greater Cairo Residential Area A Case Study on Animal-Drawn Transportation at the Beginning of the 21st Century”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mediterranean World	6. 最初と最後の頁 179-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白杵容	4. 巻 49-6
2. 論文標題 「日本の「ユダヤ陰謀論」の源流を探る：四王天延孝を中心に」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白杵陽	4. 巻 34
2. 論文標題 「イスラーム的エルサレムの現在」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ユダヤ・イスラエル研究』	6. 最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長澤榮治	4. 巻 172
2. 論文標題 「革命の顛末から分かったこと：エジプトの場合」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『季刊アラブ』	6. 最初と最後の頁 14-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirofumi OKAI	4. 巻 20
2. 論文標題 "Analysis on Non-Muslim Residents' Perceptions of Islam and Muslims in one Local Japanese Community"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『共愛学園前橋国際大学論集』	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉宣児, 岡井宏文	4. 巻 21
2. 論文標題 「フィリピン系ニューカマー女性と宗教の関わり」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『共愛学園前橋国際大学論集』	6. 最初と最後の頁 13-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷部圭彦	4. 巻 29
2. 論文標題 「オスマン帝国末期における法曹養成と宗教」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『大学史研究』	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi KATO	4. 巻 1
2. 論文標題 “ Japanese Expansion to the East Mediterranean in the Interwar Period, Viewed from the Statistics on Suez Canal ”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Roots of the Japanese Policy against the Middle East and Islam (Nobuo MISAWA ed.)	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 店田廣文	4. 巻 32-2
2. 論文標題 「地方自治体におけるムスリム住民に対する「多文化共生施策」の現状」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『人間科学』	6. 最初と最後の頁 225-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 店田廣文	4. 巻 35-2
2. 論文標題 「滞日ムスリムの生活・アイデンティティ・宗教実践」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本中東学会年報』	6. 最初と最後の頁 153-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三沢伸生	4. 巻 23
2. 論文標題 「近代日本のイスラーム世界進出」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『フィールドワークプラス』	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三沢伸生	4. 巻 54
2. 論文標題 「日本におけるトルコ関係文献の推移(2) : ムスタファ・ケマル・アタチュルク関連文献の研究」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アジア文化研究所研究年報』	6. 最初と最後の頁 159-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷部圭彦	4. 巻 1
2. 論文標題 「近代化の中の留学 比較史的考察」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『人々がつなぐ世界史』(永原陽子:編)	6. 最初と最後の頁 171-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirofumi OKAI	4. 巻 20
2. 論文標題 "Analysis on Non-Muslim Residents' Perceptions of Islam and Muslims in one Local Japanese Community"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『共愛学園前橋国際大学論集』	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 三沢伸生
2. 発表標題 「エルトゥールル号事件と日本=トルコ関係」
3. 学会等名 早稲田大学オープンカレッジ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三沢伸生
2. 発表標題 「日本における西アジア・イスラーム世界の表象化・具象化：博覧会・展覧会を通して」
3. 学会等名 『国際公開シンポジウム (オンライン) 日本の博覧会におけるアジア表象の推移：(1) 西アジア・イスラーム世界の表象』 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi KATO, Eri DEGAWA, Susumu SATO, Yutaka GOTO
2. 発表標題 "A Network Analysis on Greater Cairo, using Person Trip Survey Data"
3. 学会等名 The International Conference on Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS), (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡井宏文, 徳田剛
2. 発表標題 「地方都市での外国人受け入れにおけるローカルガバナンス構造」
3. 学会等名 移民政策学会2021年冬季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi KATO
2. 発表標題 “ Japanese Expansion to the East Mediterranean in the Interwar Period, Viewed from the Statistics on Suez Canal ”
3. 学会等名 International Symposium : The Roots of the Japanese Policy against the Middle East and Islam (Tokyo : TOYO University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroshi KATO
2. 発表標題 “ International affairs in the Mediterranean in the Interwar period and Japanese expansion to the East Mediterranean, viewed from the statistics of Port Said on Suez Canal ”
3. 学会等名 International Symposium & Workshop “ The Mediterranean as a Plaza 2 : Japan, the Mediterranean and the World ” (Istanbul : Nisantasi University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroshi KATO
2. 発表標題 “ A Note on the Personality of the Manzala Lake Region in Modern Times ”
3. 学会等名 International Workshop “ Environment and Economy in Premodern Egypt and Beyond ” (Tokyo University of Foreign Language) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akira USUKI
2. 発表標題 “ TOKUTOMI Roka 's trip from Egypt to Palestine by train in 1919 ”
3. 学会等名 International Symposium : The Roots of the Japanese Policy against the Middle East and Islam (Tokyo : TOYO University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira USUKI
2. 発表標題 “ How did Japanese intellectuals look at Muslims during the Interwar period ? : a case study of OKAWA Shumei ”
3. 学会等名 International Symposium & Workshop “ The Mediterranean as a Plaza 2 : Japan, the Mediterranean and the World ” (Istanbul : Nisantasi University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuo MISAWA
2. 発表標題 “ The image of the Middle East in Japanese pop culture ”
3. 学会等名 Neither Near Nor Far: Encounters and Exchanges between Japan and the Middle East (St.Antony's College, University of OXFORD) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三沢伸生
2. 発表標題 「 第一次世界大戦期における日本と中東の関係 」
3. 学会等名 International Symposium : The Roots of the Japanese Policy against the Middle East and Islam (Tokyo : TOYO University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuo MISAWA
2. 発表標題 “ Akdeniz ve Japonya ilişkileri : Uzakdogu'daki Japonlar nasill gelmis ? ”
3. 学会等名 International Symposium & Workshop “ The Mediterranean as a Plaza 2 : Japan, the Mediterranean and the World ” (Istanbul : Nisantasi University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡井宏文
2. 発表標題 「 在日イスラーム団体の社会活動とネットワーク 」
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会 ( 秋田大学 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirofumi OKAI
2. 発表標題 “ Activities of Muslims in Japan from the Perspective of “ Multi-cultural Coexistence (Tabunka-kyosei), ”
3. 学会等名 2nd East Asian Society for The Scientific Study of Religion (Hokkaido University). (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷部圭彦
2. 発表標題 「 大谷光瑞のトルコ投資 共和国初期のアンカラとブルサにおける日本資本 」
3. 学会等名 International Symposium : The Roots of the Japanese Policy against the Middle East and Islam (Tokyo : TOYO University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 西尾哲夫・東長靖（編），三沢伸生，岡井宏文	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 365
3. 書名 『中東・イスラーム世界への30の扉』	

1. 著者名 安藤潤一郎，重親知左子，三沢伸生	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋大学アジア文化研究所	5. 総ページ数 38
3. 書名 『図説 博覧会にみる近代日本のイスラーム世界の表象』	

1. 著者名 田中逸平（著）：三沢伸生（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋大学アジア文化研究所	5. 総ページ数 30
3. 書名 『曾遊畫觀』	

1. 著者名 Nobuo MISAWA (ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 TOYO University	5. 総ページ数 56
3. 書名 Tokyo Muslim School Album (1927-1937)	

1. 著者名 Ali Merthan DUNDAR (ed.), Nobuo MISAWA	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Dogu Kutupanesi	5. 総ページ数 268
3. 書名 Japon Seyyahi Abdurresit Ibrahim'in Izinde	

1. 著者名 店田廣文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 多民族多世代社会研究所	5. 総ページ数 33
3. 書名 『日本に帰化した外国人の生活と意識に関する調査』	

1. 著者名 店田廣文	4. 発行年 2020年
2. 出版社 多民族多世代社会研究所	5. 総ページ数 28
3. 書名 『世界と日本のムスリム人口 2019/2020年』	

1. 著者名 店田廣文	4. 発行年 2021年
2. 出版社 多民族多世代社会研究所	5. 総ページ数 44
3. 書名 『世界と日本のムスリム人口 2020/2021年』	

1. 著者名 加藤博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 680
3. 書名 『アブー・スィネータ村：個人史のなかのエジプト村落論』	

1. 著者名 加藤博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 詩想舎	5. 総ページ数 501
3. 書名 『イスラーム世界の社会秩序：もうひとつの「市場と公正」』	

1. 著者名 臼杵陽	4. 発行年 2020年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 406
3. 書名 『「ユダヤ」の世界史：一神教の誕生から民族国家の誕生まで』	

1. 著者名 鈴木重（編），長澤榮治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 369
3. 書名 『侠の歴史（西洋編 [ 上 ] ・中東編）』	



1. 著者名 長沢栄治（監）、服部美奈・小林寧子（編），長谷部圭彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 261
3. 書名 『教育とエンパワーメント』（イスラーム・ジェンダー・スタディーズ3）	

1. 著者名 Nobuo MISAWA	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Toyo University, Asian Cultures Research Institute	5. 総ページ数 66
3. 書名 The roots of the Japanese policy against the Middle East and Islam	

1. 著者名 白杵陽	4. 発行年 2019年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 406
3. 書名 『「ユダヤ」の世界史：一神教の誕生から民族国家の建設まで』	

1. 著者名 白杵陽	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 『日本人にとってエルサレムとは何か：聖地巡礼の近現代史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長澤 榮治  (NAGASAWA Eiji)  (00272493)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員    (12603)	
研究分担者	加藤 博  (KATO Hiroshi)  (10134636)	一橋大学・その他部局等・名誉教授    (12613)	
研究分担者	岡井 宏文  (OKAI Hirofumi)  (10704843)	京都産業大学・現代社会学部・准教授    (34304)	
研究分担者	店田 廣文  (TANADA Hirofumi)  (20197502)	早稲田大学・人間科学学術院・名誉教授    (32689)	
研究分担者	臼杵 陽  (USUKI Akira)  (40203525)	日本女子大学・文学部・教授    (32670)	
研究分担者	長谷部 圭彦  (HASEBE Kiyohiko)  (60755924)	東京大学・東洋文化研究所・特任研究員    (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	福田 義昭  (FUKUDA Yoshiaki)  (60390720)	大阪大学・大学院・人文学研究科    (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	沼田 彩誉子  (NUMATA Sayoko)  (20973788)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・学振特別研究員（PD）    (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関